

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成24年度(2012年度) 事業報告

1. 受託事業

[1] デジタル化と映像文化の未来を考える

—デジタル時代における映像メディア・キュレーター育成のためのワークショップシリーズ

(文化庁 平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

(1) 「デジタル化と映画文化の未来」連続講座

急速に進みつつある「上映(映画館)のデジタル化」の中で、地域の映像文化を支えてきた中小規模の独立系映画配給者や製作者、ミニシアターや名画座、地域のシネマテーク、公共ホール、映画祭は、この状況にどう対応する必要があるのか。当面の対応策を考えるとともに、文化としての映画映像という視点から現状を把握し、デジタル化によって可能となる新しいタイプの上映施設のあり方、あるいは35ミリフィルムによる上映環境の確保にいたるまで幅広く議論を行った。

① 「独立系映画館のデジタル化の現状を知る そして35ミリ上映環境の確保について考える」

2012年6月30日

会場:東京国立近代美術館フィルムセンター

出演者:水野昌光氏(伊勢・進富座)ほか 参加者:約100人

主に映画館を対象にデジタル化の現状について劇場からの報告を交えながら検証した。

② 「独立系映画館のデジタル化の現状を知る そして35ミリ上映環境の確保について考える in 京都」

2012年12月14日

会場:立命館大学

報告者:デジタル機器メーカー担当者 参加者:約30人

地域の独立系映画館、ミニシアターなどが参加し、デジタル化の機器についてのプレゼンテーションを受け、機器の選択などについてディスカッションを行った。

③ 「デジタル化時代の映画祭＝上映＋公開シンポジウム」

2013年1月14日

会場:高崎市文化会館

出演者:石坂健治氏(東京国際映画祭)ほか 参加者:120人

高崎映画祭との共催で、映画祭や映画祭の会場となる公共文化施設のデジタル化についてのシンポジウムを行った。

④ その他「フィルムセンター＋シネマテーク・プロジェクト合同ミーティング」

2012年11月21日

会場:東京国立近代美術館フィルムセンター 参加者:9人

映画を専門的に扱うシネマテークの担当者が集まり、東京国立近代美術館フィルムセンターとともに、デジタル化への対応、35ミリフィルムの上映環境の確保などについて、意見交換を行った。

⑤ シンポジウム—デジタル化と映像文化の未来

徹底討論「残す? 残さない? 35ミリ上映環境の確保について考える」

2012年9月9日

会場:桜坂劇場(那覇)全国コミュニティシネマ会議にて

出演者:岡島尚志氏(東京国立近代美術館フィルムセンター)ほか 参加者:約100人

デジタル化の現状を広く報告し、映画上映のデジタル化についての理解を広めるとともに、今後の方向性について考えるディスカッションを行った。映画館、シネマテーク、フィルムアーカイブ、映画祭、公共文化施設の関係者が登壇し、それぞれの立場からデジタル化の現状を報告した。約100名の参加者を得ることができた。

(2) 映像教育プログラム専門家養成事業

映画の観客の高齢化、観客の減少という課題に対応するための事業。映画館・シネマテークに若年層(中高生、大学生)の観客を呼び込むため、この事業では、若年層を対象とする事業を実際に企画・実施するワークショップと、短期間の集中講義とワークショップからなるプログラムの2事業を実施した。

映画教育プログラム専門家養成のための集中ワークショップ

① 「若い観客開拓のためのワークショップ 自館の広報戦略を再検証する!!」

2012年9月9日

会場:桜坂劇場

講師:マデリーン・プロスト(ヨーロッパシネマ)ほか

参加者:ワークショップ 15人/ディスカッション 50人

昨年に続き、フランスに本部を置く映画館支援機関「ヨーロッパシネマ」から映像教育の専門家を招き、映像教育の理念と実践を学ぶ集中講座と簡単なワークショップを開催。公共文化施設やコミュニティシネマ、映画館の若手スタッフなどが参加した。

② 「コミュニティシネマのための宣伝・集客特別講座」

2013年3月4日

会場:映画美学校(東京)

講師:竹内幸次(中小企業診断士) 参加者:20人

この講座では、特にHPやFacebook、Twitterなどインターネットの活用に焦点を当て、ワークショップを実施した。映画館、公共文化施設、自主上映団体などから計20名が参加した。

「高校生のための映画館」「中学生のための映画館」プログラム ワークショップ

昨年に引き続き、特に「高校生」(あるいは中学生)等、若い観客を対象として、映画映像の魅力を伝えるためのプログラムを、川崎市アートセンター、桜坂劇場、シネマ尾道、金沢シネモンドにおいて企画・実施した。

① 川崎市アートセンター

(1) 放課後シアターvol2 上映作品:『タレントタイム』

高校生参加の「タレントタイムの作戦タイム」7月17日

高校生5名 専門高校生・大学生2名/その他10名ほど

放課後シアター8月7日 高校生6名/専門高校生・大学生5人/その他15名ほど

(2) 放課後シアター vol.3 上映作品:『39(サンキュー)窃盗団』

2012年12月17日 中学、高校生2名/その他10名ほど

(3) 放課後シアターラインナップチラシ Spring 2013 2013年1月完成

② 桜坂劇場 「高校生の映画館 in 桜坂」

2012年9月9日

上映作品:『ビラルの世界』(2008/ソーラブ・サーランギ監督) ゲスト:梅佳代(写真家)

約20人の高校生が参加

③ シネマ尾道 映画を観よ、町へ出よう! 「高校生のための映画館@尾道 2012」

2012年12月16日 上映作品:「桐島、部活やめるってよ」(監督 吉田大八/2012)

④ 金沢シネモンド 「高校生のための映画館 in 金沢『ひとつの歌』鑑賞+監督ティーチン」

2013年3月17日 上映作品:『ひとつの歌』(監督・脚本:杉田協士/2011)

(3) 映像アートマネージャー養成講座Ⅰ～第6期シネマ・マネジメント・ワークショップ 修了企画の実施

2013年1月19日～20日

平成23年度に9ヶ月間開講した「映像アートマネージャー養成講座」の成果を発表するための、受講生による上映会・企画展を開催。4月よりミーティングを重ね、2013年1月19日に“映画館での新しい出会い”をテーマにイベント「キノ×コン！」を開催、700人近い来場者を迎えることができた。

[2] 全国コミュニティシネマ会議 2012 イン 那覇 の開催

開催時期:2012年9月7日(金)～8日(土)

開催会場:沖縄那覇・桜坂劇場

今回の会議は「魅力的なまち、居心地のいい場所をコミュニティシネマ」をテーマに、桜坂劇場で開催した。初日は、「魅力的なまち・那覇をかたちづくる人たち～桜坂劇場のまわりにいる人たち」「桜坂劇場 大解剖！」という桜坂劇場に関するふたつのプレゼンテーションを受け、ディスカッションでは地域と映画館の関わり、魅力的な映画館づくりについて話し合った。また、2011年度より継続している「シネマエール東北」の活動報告も実施した。二日目は、「デジタル時代における映像メディア・キュレーター育成のためのワークショップシリーズ」として「徹底討論 「残す? 残さない? -35 ミリ上映環境の確保について考える」と「高校生の映画館 イン 桜坂」を実施した。

[3] 「文化なしごとと創造事業」 内閣府 復興支援型地域社会雇用創造事業

実施期間:2012年4月～2013年3月

事業実施コンソーシアム構成団体:NPO 法人 20世紀アーカイブ仙台、コミュニティシネマセンター、teco LLC、有限会社コンテンツ計画 協力:ジャパン・フィルムコミッション ほか

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島復興を支援するために内閣府が実施する「復興支援型地域社会雇用創造事業」に、20世紀アーカイブ仙台を提案団体として上記4団体でコンソーシアムを組み、“文化なしごと”で、被災地の復興と活性化を志す個人・団体の起業を支援する事業と、“文化なしごと”に携わる人材を育成するための研修プログラムを実施した。

研修プログラムには40名が参加。文化な事業の運営スタッフとして身に付けるべき基礎的な内容を学ぶ「座学研修」と、即戦力を身につけるための「実地研修」、合わせて180時間に及ぶ研修を実施した。実地研修では、岩手県宮古市、宮城県石巻市、福島県南相馬市をフィールドに、その地域で活動している人たちの協力を得て、それぞれの地域の実状に即した事業を企画・実施した。

12月8日-9日「ISHINOMAKI 金曜映画館(仮称)開館記念フェスティバル！」

研修終了後も継続する上映会企画「ISHINOMAKI 金曜映画館」を提案し、その開館記念イベントを、現地協力団体と共催、石巻の市街地に人を呼び戻す取り組みを始めた。

11月23-25日「ほっこりみやこ映画祭」

みやこシネマライン(映画館)、サネバネ本舗(フリーペーパー発行)の協力を得て、宮古を街ごと楽しめる映画祭を開催。研修生の取材・編集による街案内マップも作成。

11月23日 映画上映会「朝日座 ひはまたのぼる」(南相馬市)

大正時代から続く映画館、朝日座についてのドキュメンタリー映画を製作し、朝日座で上映会を開催。監督は藤井光氏。当日の様子をUstreamで配信した。

起業支援事業では、57件の応募プランの中から10プランを選定、支援金200万円を与え、起業(法人の設立)を実現した。

一般社団法人メディアデザイン(仙台市・出版事業)/会津伝統綿花の栽培と商品化プロジェクト/(仮)アーバンデザインセンター石巻(まちづくり、コンサルティング)/日和キッチン(石巻市・レストラン)/釜石カルチャーリサーチパーク(文化イベント、ブランディング)/自分たちでつくる災害民話創作事業(南三陸町)/「復興現場の歩き方」出版事業(東北震災復興ツーリズム協会)/Star Tohoku レーベル(一般社団法人まちとアート研究所)/特定非営利活動法人アーキテクチャ・トゥ・ムービー(移動映画館)/試作Laboプロジェクト(仙台市・キリハラワークス&デザイン)

2. 自主事業

[1] シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

2012年4月～2013年3月の1年間で、岩手、宮城、福島を中心に、161回の上映会を開催、約7700人の来場者を迎えることができた。このプロジェクトを開始した2011年6月からの約2年間ではのべ372回の上映会を実施、来場者は1万5000人をこえている。

仮設住宅の集会所などでは、「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」(東宝)や「ワンピース」(東映)といった子供向けの作品や「男はつらいよ」シリーズや「釣りバカ日誌」シリーズ(松竹)、あるいは「暎の母」といったクラシック作品を上映した。

被災地域の復興・復旧に伴い、公共文化施設の使用も可能となり、35ミリフィルムでのやや規模の大きな上映会も実施することができた。岩手県みやこシネマラインでは、被災地での巡回上映会が100回となったのを記念して6月に『生れてはみたけれど』の活弁+演奏付上映会を開催、石巻市では7月のStand up Weekに、被災したビルの壁をスクリーンに活弁付の野外上映会を開催した。また、岩沼市では東北大学のスクール・オブ・デザインが行う上映会に協力、公園に巨大な繭のような形をしたテント(Moom)をつくり、その中で上映会を行った。福島では、「福島子どもみらい映画祭」と連携して、いわき市や会津若松市で野外上映会や夏休み子ども映画会を開催した。

また、文化なしごとと創造事業の研修プログラムと連動して、岩手県宮古市、宮城県石巻市、福島県南相馬市で、それぞれの地域に応じた個性的な上映会を企画・実施。株式会社ポケモン(ポケモン映画制作委員会「ピカチュウプロジェクト」)と共同でポケモンの最新作の上映会を10会場で開催、多くの来場者を迎えることができた。

2012年度も多くの上映者、個人から、総額約240万円の募金をいただきました。

主催: 一般社団法人コミュニティシネマセンター、東日本映画上映協議会

岩手県:みやこシネマライン

宮城県:NPO法人20世紀アーカイブ仙台

福島県:山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

作品提供(DVD無償提供):松竹株式会社、東宝株式会社、東映株式会社 ほか

特別協力:公益財団法人ユニジャパン/東京国際映画祭

支援:芸術文化振興基金、ジャパン・ソサエティ(ニューヨーク)

共催:株式会社ポケモン、株式会社ダイナム

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 選定・推薦作品

・浜松発映画『楽隊のうさぎ』の製作支援および加盟館での公開

函館発映画『海炭市叙景』に続く加盟館製作参加型映画、浜松シネマイーラ発信の『楽隊のうさぎ』の製作、配給支援。

『楽隊のうさぎ』—

原作:中沢けい(新潮社刊)、監督:鈴木卓爾(『ゲゲゲの女房』)、脚本:大石三知子(『東南角部屋二階の女』)、制作:スローラーナー 2012年7月クランクイン 2013年5月クランクアップ 7月末 初号試写

9月6日(金)全国コミュニティシネマ会議で上映予定

12月14日(土) ユーロスペースほか全国シネマシンジケート加盟館ほかにて順次公開予定。

(2) 配給受託事業

・『ル・アーヴルの靴みがき』 アキ・カウリスマキ監督作品/2012年4月24日より順次公開

⇒全国63館にて上映 全国動員:62,600人

・『ライク・サムワン・イン・ラブ』 アッバス・キアロスタミ監督作品/2012年夏より順次公開予定

⇒全国30館にて上映 全国動員:15,500人

- ・フランス映画未公開傑作選『刑事ベラミー』『ある秘密』『三重スパイ』2012年4月より順次公開
⇒全国11館にて上映 全国動員:9000人
- ・『カルロス』オリヴィエ・アサイヤス監督作品/2012年秋より順次公開
⇒全国16館にて上映 全国動員:8000人
- ・デジタルSKIPシティ「Dシネマ・プロジェクト第3弾作品『チチを撮りに』」
⇒全国13館にて公開 全国動員:3000人
- ・WOWOW「旅するW座」—『愛のあしあと』『エメランスの扉』
⇒35ミリ・フィルムで全国ミニシアター、名画座9劇場にて開催。
- ・その他「ポーランド映画祭2012」、「ホセ・ルイス・ゲリン映画祭」、「friends after 3.11【劇場版】」
を全国加盟館にて上映

(3) 映画館のデジタル化関連の情報収集と提供

中心市街地活性化事業によるDLP導入館のVPF契約への移行模索と未導入館への情報提供。

(4) フィルム映写環境維持のための情報収集と提供

フィルム映写メンテナンスのための機材確保と人材確保のための情報収集と提供。

[3] シネマテーク・プロジェクト

(1)「フレデリック・ワイズマンのすべて」の巡回

2011年につづき、「FREDERICK WISEMAN RETROSPECTIVE フレデリック・ワイズマンのすべて」の巡回を行った。巡回会場は、名古屋シネマテーク(13作品)、川崎市アートセンター(2作品追加上映)、福岡市総合図書館(20作品)、アテネ・フランセ文化センター(21作品)、約3200人の観客を迎えることができた。

(2) シネマテーク/公共ホールのデジタル化とフィルム映写環境確保について調査と提言

映画館で急速に進行しつつあるデジタル化、フィルムアーカイブやシネマテーク、公共ホールがどう対応する必要があるのかを検討し、2013年度以降の企画について意見を交換した。

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1)「松竹キネマ90周年記念企画・渋谷実監督特集/松竹を代表する10人の女優たち」巡回

(共催:東京国立近代美術館フィルムセンター(渋谷実監督特集)、提供:松竹株式会社)

2011年度に続き、「女優王国—松竹を代表する10人の女優たち」と「渋谷実監督特集」を巡回。2012年度は、神戸アートビレッジセンター(計20作品)、福岡市総合図書館、(9作品)シネマ・ルナティック(5作品)に巡回し、2000人を越える観客を迎えることができた。

(2) その他の巡回作品、所蔵フィルムの巡回など

コミュニティシネマ賞受賞作品『ピラルの世界』…16館で上映 約1500人

『おだやかな日常』…2013年3月末までに8館で上映(東京、関西、広島除く)約1100人。

このほか、当センターが保有するワイズマン、ヤスミン・アフマド監督作品、配給委託作品等の貸出を行った。

[5] その他の事業

地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイス、ウェブサイトの運営、会員制度の充実など